



会長 紺野 広 青少年奉仕 夏川戸 齊
副会長 橋本 昭一 幹事 松本 剛典
クラブ奉仕 橋本 昭一 会計 妻神 和憲
会長エレクト 橋本八右衛門 会場監督 佐々木泰宏
職業奉仕 道尻 誠助 直前会長 小林 幹夫
社会奉仕 岡崎 孝文 副幹事 小田山紀暢
国際奉仕 鶴飼 寿栄 会計補佐 小井田和哉

例会日 毎週水曜日 12:30 例会場 八戸グランドホテル
事務所 八戸市番町14 八戸グランドホテル内
電話 (43) 0608 FAX (43) 0661
e-mail rc8@vc.hi-net.ne.jp
http://hachinohe-rotary.org/
会報・広報委員長 峯 正一 同副委員長 上村 奉樹
同委員 妻神 和憲 同委員 野村 一雄

国際ロータリーのテーマ — 2023~24 — 八戸ロータリークラブのテーマ

世界に希望を生み出そう

和而不同 (わじふどう)

国際ロータリー会長 ゴードン R. マッキナリー

八戸ロータリークラブ会長 紺野 広

7月 は 新会員のための月間です

第3318回例会 2024.6.26

▶ ゲスト

青森県知事 宮下宗一郎様
八戸工業大学第二高等学校
インターアクト顧問 細越利幸様
米山奨学生 程 佳萌様
八戸東RC 若山忠義様
八戸南RC 福田弥夫様
八戸南RC 三川 博様
(zoom参加)

新しく入会いただいた会員の奥様
丹波ヨウコ様、田守トモミ様

会長要件 紺野 広 会長



今月一杯で会長の任期を終える事と成ります。残り数日で公式な仕事が生じるとは思えませんので、恐らく此の最終例会での挨拶が会長としての最後の仕事と成ろうかと思ひます。

此の1年間、尊敬し師事する先輩方、そして、頼りに成り遊んで戴いても居る後輩の皆様、御支え戴いて、本当に楽しいロータリーアンとしての1年を過ごさせて戴きました。

私は、ロータリーの全てを肯定して居る訳でも、全ての活動が好きで有りませんが、此の八戸ロータリークラブは本当に大好きです。会長を仰せつかった時も、余りストレスを感じず、そして、会長任期中も楽しく過ごさせて戴いたのは、皆様の御陰だと思ひます。

さて、本日は、宮下宗一郎青森県知事が御越しに成られます。知事とは、何度か食事を供にする機会を戴いて居りましたが、其の会の中で、私のロータリーの会長年度最終例会が今日執り行われると言う事を、他の参会者から聞かれて、「其の例会に花を添えに伺いますか。」と御申し出下さいました。「当クラブ会員とも御懇談戴きたいので、是非御願ひ致します。」と云う事で、本日御来賓として御越しを賜り、卓話を頂戴する事に成りました。本当に有難い事だと思ひます。ロータリーは組織として政治に関わってはいけ無いと云う事は、皆様既に御存知の事で、熊谷市長がいらした時にも御話し申し上げましたが、一旦選挙が終わって、首長が決まった其の時点以降はノーサイドで、我々其々がニュートラルな一県民に戻り、県政を考えて

行か無ければ成りません。反対候補を応援していた方々も、選ばれて首長に成られた方を支えて行かずに、反対し、足を引っ張ってばかりでは、必要な案件の決定、施行が遅れてしまいます。特に今、政府が施策を講じても中々抗えて居無い人口減、少子高齢化に関して、47都道府県の中で先鞭を切って、其の問題に真っ向から立ち向かっている宮下知事には、其の流れを、停滞させずに進めて行って戴きたいと思っております。知事が遣ろうとして居る事の大筋は本当に我々が求めて居る、社会が必要として居るものなのだと感じます。今遣ら無ければいけない事を迅速に遣って戴いて居る事に対してましては、感謝の気持ちしか御座いません。

宮下知事が到着されましたので、皆様、御起立の上、拍手で御迎えを御願い致します。丁度今、知事の話をして居た処です。大きな今必要とされる課題にスピード感を持って、正しく立ち向かって居られる知事を御支えして行けたらという話しです。ロータリーは、組織として政治に関わっては行け無い縛りが御座居ます。只、首長に成って素晴らしい施策を、スピード感を持って遣って戴いて居る事に関し、感謝申し上げますと共に、新聞には、手法に関しての賛否等、厳しい報道も散見されますが、選挙民の一人として、選ばれた我々の代表を応援して行くべきだと思っております。

ロータリーが出来たのは、職業倫理が崩壊して居た時代でした。信頼出来る仲間が集まってきちんとした商取引をしよう。そして町を下支えして守って行こうと云う事で、シカゴで、最初のロータリークラブが発足致しました。只、今の時代の人口減少、少子高齢化は、守って行くと言う様な保守的な思想では本当に歯止めをかける事の出来無い、厳しい状況なのだと思います。知事が為さりたいと思っております事に関して、我々も知恵を出し合って、施策をより良いものとし、県民と一緒に成ってスピード重視で立ち向かって行か無いと成し遂げられ無い問題だろうと考えます。今日は、喫緊と考えられる其の他の

課題に関する御話しも、聴けるのではと思っております。皆様、本日は、ロータリークラブ、ロータリアンとしてではなく、其々が、県民個人として知事の御話しを御聞き戴き、今想い描ける最良の結果を求め、意見交換をして戴ければと存じます。宮下知事、本当に御忙しい中、我々の為に御時間を作って戴き、有難う御座居ます。

其れから、皆様。素晴らしい先輩、後輩に恵まれ、楽しい会長の1年間を過ごさせて戴いた事に対し、重ねて感謝を申し上げます。本当に有難う御座居ました。

米山奨学金贈呈

米山奨学生 程 佳萌さんへ贈呈

幹事報告 松本 剛典 幹事



紺野年度の最後の幹事報告となりました。1年間、拙い司会進行で皆さんにたいへんご迷惑をおかけしたと思っております。わたしも幹事の仕事をし、少しはロータリアンの一員になれたのではと、これも紺野会長をはじめ皆さまのお陰だと思っております。本当にありがとうございました。

○今日の二次会のご案内

9時～、去年基隆クラブをお迎えした際の二次会会場の2階のお店です。ロー丁、ホテルイル・ヴァーレの向い奥の2階です。紺野年度を楽しく締めくくるために、できるだけ多い参加をお待ちしています。

水曜会より寄付金贈呈

水曜会会長 佐々木泰宏さん

バッチ伝達 現/新会長幹事バッチ伝達

紺野 広会長 ⇒ 橋本八右衛門次年度会長

松本剛典幹事 ⇒ 小田山紀暢次年度幹事



次年度理事役員会：橋本八右衛門次年度会長
次年度はどうぞよろしく願いいたします。

会長	橋本八右衛門
副会長・クラブ奉仕委員長・理事役員	妻神和憲さん
会長エレクト・役員	石橋信雄さん
職業奉仕委員長・理事	山村和芳さん
社会奉仕委員長・理事	小井田和哉さん
国際奉仕委員長・理事	深澤 隆さん
青少年奉仕委員長・理事	正部家光彦さん
幹事・役員	小田山紀暢さん
会計・役員	岡崎孝文さん
SAA・役員	鶴飼寿栄さん
直前会長・役員	紺野 広さん
副幹事	中村稔彦さん
会計補佐	浜谷英幸さん

このメンバーで次年度は頑張らせていただきますので、ご協力よろしく願いいたします。



次年度会長挨拶 橋本八右衛門次年度会長



次年度会長を仰せつかりました橋本八右衛門です。現年度紺野会長は本当にストレスも感じなく、本当にやられたと先ほどコメントされていま

しましたが、今までいろいろな準備をさせていただきましたが、段々とストレスを感じてきて、本日はなかなか、来週からということではなかなか大変な感じになっています。それでも今、役員紹介をさせていただきましたが、その方たちを中心に、また会員の皆様のご協力を得ながら紺野会長のやられたことを引き継ぎながら、次年度精一杯頑張りたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

また、いきなり来週はガバナー公式訪問で、いきなり山がきますので、きょう参加された方はぜひご参加いただきたいですし、これから来週に向けての準備でまたご協力をお願いする委員長の皆様もおられますので、とにかく頑張ってお走っていきたく思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

本日は会長エレクトとして最後の夜を紺野会長と共に精一杯楽しみたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。



「青森新時代」への架け橋 ～よりそい、未来へつなぐ～



こんばんは、ご紹介いただきました青森県知事の宮下宗一郎です。きょうはよろしく願いいたします。昨今、本当に毎日毎日、朝新聞を開く

青森県知事 宮下 宗一郎 様

と悪口ばかり書いてあって、すごい頭にきています。本当に心から腹が立っているのですが、ただ、わたしが怒る前に家内のほうが怒っているんです。なんだ、この記事、パパ見て。この怒りが収まらない。わたしはど

ちらかという悪口は言われ慣れているので、何とか納めることができるのですが、家内のストレスが溜まって、何とか皆さんしてもらえませんか。ぜひ各新聞社によろしくお伝えいただければと思っております。そっちの方が県政に影響があるというふうに感じています。

本当にこの1年間は、ちょうどこの6月29日で就任して1年ということになります。この1年県民の皆さまと対話を繰り返しながら、青森県の課題の本質に迫っていった1年だなと感じています。本当にお陰様で充実した日々を送らせていただいています。

先ほど紺野会長からもお褒めのことばをいただきましたが、紺野会長にはロータリーという立場ではなく、本当に個人的に応援をずっといただいております。きょうはそういう意味では会長退任のタイミングで、こうして花を添えることができるといふ思いで、こちらにこさせていただいております。ただひとこと申し上げたいのですが、八戸でロータリークラブの卓話に出たというところに行かなければいけない、ということですので、きょう来たことは内緒にしておいていただければ。

きょうは『「青森新時代」への架け橋～よりそい、未来へつなぐ～』ということで、本当に限られた時間、19:10まで、残すところあと15分なので、10分程度簡単にお話をしてお一人お二人からご質問を受け賜うような形にしたいと思います。この先も時間が限られておりますので、ぜひ皆さんとコミュニケーションを深めていきたいと思っております。

簡単に自己紹介をさせていただきます。むつ市で生まれ、むつ市で育ちました。高校は青森高校、大学は東北大学法学部に進み、平成15年から国土交通省に入省し、9年間国土交通省で働いて、その後、外務省に出向し、ニューヨーク総領事館で2年間、ニューヨークで生活もし仕事もして参りました。その先、ちょうど2年経ったその瞬間に父が亡くなり、他界しまして、当時むつ市長をやっていたものですから、白羽の矢が立って地元に戻ることになりました。当時35才。今から10年前に

なります。8年8か月、ほぼ9年市長の仕事をさせていただいて、昨年からは知事です。家族は妻、長女、次女、母。現在は3人で次女と暮らしています。長女は進学で、わたしとは違う地域で一生懸命勉強している状況です。

青森県の課題の本質に迫るとはいったいどういうことだろうかということ。まず1つは人口減少だと思えます。どれくらいこれから減っていくのかということ、2040年ともなると、残すところあと16年ですが、100万人を大きく切って91.4万人になります。今118万人くらいですから、かなり減ります。八戸が無くなるくらい人口が減る。この原因の一つには合計特殊出生率、2人の夫婦から生まれる子供の数が現状1.23。ほぼ世代を超えて半分ずつになっていくという感じになっています。現在5,696人が2023年に新しい命として誕生しましたが、青森県で亡くなる方の数は20,000人です。ですから15,000人程度は毎年人口減少しているのが実態です。

それに加えて、もっと危機感を持たなければいけないのは、高校生、大学生の県内定着率です。これは実際に高校を卒業して就職する人のうち、どれくらいが県内に残るかということと61.7%しか残りません。他の県はどのくらい残るかということと実は80%くらい残ります。青森県は高校生から就職先で選ばれない県になっています。これは大事なポイントです。

次はもっとひどいです。青森県内は大学・短大が17ありますが、その大学生が就職する先として県内に残る人たちは3割いないです。びっくりします。7割の人たちが県外に就職する。青森県の大学にいる子どもたちです、戻って来るとかじゃないです。この現実にはわたしたちは目を向けなければ、人口なんて。まずそもそも1.23という自然減で増えるわけもないし、高校生が定着したり大学生が定着することはあり得ない。

わたしは八戸のウルスラ学院で全校生徒を前に対話集会をさせていただきました。必ず高校に行って聞きます。県内で就職したい人は？生活を営んで家族を作って、暮らしていきたい人は？と聞くと、どれくらいの方が

手を挙げると思いませんか？ 1割いかないです。1割いかないです。わたしは寝てると思うんです。君たち寝てるんじゃないの？ 県外に行く人はと聞くと9割以上が手を挙げる。これはわたしだけが、県だけが、あるいは市町村だけが考えてもどうにもなる問題ではありません。本当にこの現状を今わたしたちが、企業のトップが、あるいは行政のトップが本当の意味で理解をしないと次に絶対進めません。

何かいろんなことがあると、人口減少とか、子ども子育てとかいうと、全部県のせいにされたり、全部国のせいにされたり、全部市町村のせいにされます。わたしもたまに国のせいにします。でも、やはりそうじゃない。自分のこととしてこの人口減少というものを考えて、それぞれができる行動をしていかなければ、もうこの先ほんとうにわたしは青森県はなくなってくると、そう思っています。

だいたい県の予算はどれくらいかという、一般会計で7,022億円、特別会計を合わせるとだいたい1兆円くらいの支出があります。県内総生産は4.5兆円です。これは実質ベースです。付加価値なので、おそらくこの2分の1になると思いますが、その4.5兆円のうちのだいたい5,000億円くらいがたぶん県の支出、県の消費額、公共の支出額になっています。そういう部分でいうとかなりの部分が青森県が県の経済を牽引しているという部分があります。

でも考えて欲しいのはたったそれだけなんです。わたしはそこにすごく責任を感じていて、県民経済の基本OSだと県庁は表現します。例えば4.5兆円のうちの5,000億くらいにしかならない。つまり残りの4兆円の分は民間です。じゃっかん市町村というのも同じくらいあるかもしれません。ですから3.5兆円くらいは民間なんです。民間の人たちがみんな力で合わせて、わたしたちも含めてですが、みんなで力を合わせてこの対応をやっていかなければ、これは絶対にうまくいかない、わたしはそう思い始めています。

さまざま政策をやっていきます。これから

の青森県政は7つの大きな柱で事業を進めていこうと思っています。いろんな意味で子育て事業がすごく目立つので、知事は子育てばかりに力を入れていると思われがちですが、一番力を入れているのは雇用と経済です。仕事の分野です。続いてインフラ、社会インフラです。そして子ども、子育て。さらには健康、地域社会交流、環境。このような形でこの額を見ると優先順位がわかってくるような感じになっています。

その中で今年ぜひスタートしようと思っているのは県内の全大学と県と市町村、産業界が連携したプラットフォームを作りたいと思っています。今までずっと子どもたちに魅力をPRすれば子どもたちは残ってくれると言っていましたけれど、そんなことあるわけがないです。それだったらすでに成功している。子どもたちと話をしているとよくわかります、自分もそうだったから。好奇心があるんです、新しいことへの。だからみんな東京を目指します。目指してどうなったかはまた別にしても目指す。

そういう感覚はわたしたちも理解しながらも、仕事があるということも含めて、あるいは簡単にいうと民間企業側にもっともっと頑張ってもらわなければいけない。人手不足、後継者不足だとか、みんなでわたしにどうかしろといわれますが、じゃ振り返ってみてください。皆さんの企業のホームページに採用情報がちゃんと載っていますか。それがトップに来ていますか。そしてロールモデルとしての先輩たちがこういうふうに住んできて、仕事をしていて楽しそうに企業の中で仕事ができるという環境があることをホームページやwebサイトで公表していますか。東京の企業の大手の企業はぜんぶそれをやっているわけです。

今、こどもたちはリクルートナビ、仕事を検索するようところで仕事を求めるのではなく、一人一人がスマホで自分の行きたい仕事を求める、そういう場面になってきている。そういう時代になってきている。ところがその時代に青森県の企業はなかなか追いついて

こない。ここやはり何とかしないと。別にわたしは民間企業側に責任を押し付けているわけではありません。一緒にやろうという話をしている。一緒にそういうことをやっていると、状況を丁寧に理解しながら、一緒にそういうことをやっていると、いくら知事が旗を振っても、いくら県がお金をかけても、市町村がいくら子どもたちに魅力を伝えても伝わらないです。

だって皆さん、例えば半導体の産業は青森県にどのくらいあるかご存じですか？ 熊本にTSMCが立地して1,700人の雇用が達成したというのが大きなニュースになっています。青森県に半導体および半導体関連企業は20社あります。その20社の合計雇用数は5,000人を超えています。さらに言えば、生産額を見ると2,500億を超えています、半導体産業だけで。この事実をわたしたち県民も知らないし、まして大学生やあるいは高校生も知るよしもない。しかも半導体関連産業はもちろん都会に負けない給料を出しています、この環境の中でも。でもそういうことすら、わたしたちはなかなか伝えきれてこなかった。だから本気でこういうことをやるプラットフォームを作って、ただ協会が作るいつもの県庁の政策になります。いつもの県庁の政策を批判しているわけじゃないですが。だからこの中で新しい新規の施策や事業をしっかり作って行って、何とかこの数字が6割が8割になる、そして3割が5割になる。100%はないかもしれないけれど。逆に青森県に定着する若い人たちが多くなってくるという環境を作れば、今度は逆に帰ってくる人たちも増えるだろう。こういう見通しを立てながら、今回このプラットフォームをぜひともスタートしたいと思っています。

さまざま人口減少、その本質的な課題、それについて乗り越える、あるいは目標を立ててやる。これから大事にしていきたいのはデータです。きょうも例えば人口は2040年には91万人になるとか、あるいは高校生の定着率が6割、大学生の定着率が3割を切っていると、そういうことは本当にこれから政策

の基礎になり、それをみんなで共有して新しい施策をみんなで考えていくということを青森県政の中でぜひ実現したいというふうに思っています。

わたしは青森新時代を掲げて1年前に当選させていただきました。この青森新時代の本質は県庁が動いてみんなが動くのではなく、県庁の動きや県の動きが市町村の動きに呼応して、民間が自律的に動き出す。そして青森県全体が大きな船のようにいい方向に動き出す、その瞬間までこれは達成できないと思っています。ぜひこれからの青森県政については深いご理解とご協力をお願い申し上げたいと思います。

本県についてあるいはそのほかの事について、東京都知事選について、あるいは国政について、あらゆる皆さんの疑問にお答えさせていただきたいと思っています。本日はありがとうございました。

質疑応答：

Q1 築館：ガバナーの築館です。ちょうどわたしも7月の一番最初に、宮下知事が就任されてすぐの時に表敬訪問をさせていただきました。すごいお忙しい中、10分くらいだったと思いますが、挨拶をさせていただきました。10分という名刺交換をしてあ、あとという、そろそろお時間ですという感じでなかなかお話しできませんでした。

子育てのお話しでしたが、確かに青森県はどんどん子供も増えて人口も増えればいいなと思うのですが、たぶん宮下さんはものすごくやられていると思いますが、どの県もたぶん同じに一生懸命にやられていると思います。そうすると例えば、高校生なり大学生なりが取り合いになるじゃないですか。絶対数は今は出生率は低くて、ですから取り合いになるというよりは、白旗を上げて減ってもいいや。

わたしは限界集落を見た瞬間に無くなったらいいなとわたしはよく思います。無理してそこにいるよりは元々そこってクマやタヌキしかいなかったところに人間が行っているわけです。ですから限界集落を無くさないよう

にという考えもあるのかもしれないけれど、わたしはきっちり自然に返したほうが良いなというふうに、わたしは思っています。どうなんですか？青森県はどんどん栄えていかないといけないものなのか。わたしは江戸時代などはとてもいい時代だったなと思っています。

A 1 宮下：まず論点の1つ目として申し上げたいのは、社会経済指標の中で人口の指標はほぼ100%当たります。明日の株価あるいは3年後、5年後の株価を予測できる人はいない。為替も予測できる人はいない。県の財政状況も同じでどうやって使ったか、どうやって入ってくるか分からないから社会経済指標の中でデータで表すものは不確かなものが多い。だけれど人口だけはこれは確実に当たります。

つまり何がしたいかという、この人口減少のカーブは確実にこうなります。だから減って行く社会をどうやって作っていくかということが物事的前提になる。これは間違いないです。だから減っていく中で生産性を上げていかなければ今の経済状況は維持できなくて、豊かさが失われていく。貧乏になっていいんだったら、自分の子供や孫の世代が貧乏になっていいんだたら、人口減少に任せて何もしないということはありませんが、豊かさを孫の世代まで残すためには生産性を上げていかなければいけないというのが、1つあると思います。ただ、人口は確実に減って行きます。

ポイントの2点目は合計特殊出生率を2.07以上にしなければなくなるんです、日本が、八戸も。なくなっていいということであれば、そのままでもいいと思いますが、なくなっていいということは、限界集落とか築館さんに全然関係のないところがなくなっていいということは、それは発想としてあるかも知れませんが、八戸がなくなっていいとはたぶん思わないです。それを同様に自分が住んでいるエリアがなくなっていいと思う人はたぶんいないはず。

じゃ、なくなっていいというふうに思わな

いで、存続させていくためには、人口がいくら減ったって、少なくともこの数値を改善しなければ半分になる。当たり前では夫婦が2人いて、次の世代が1人になっていくわけですから、世代間で半分半分になっていくわけです。いつか無くなるということを許容するのかということでは、これは許容できない。

とすると、まずこちらの数字はすごく大事にしなければいけなくて、今のところ人口減少はさっきのカーブで続いていきますが、いつか止めるという段取りがなければいけません。それかもしくは移民政策をして、外国人がいっぱいいれば日本はなくなるということはありませんが、それで本当にいいんですか、ということを実際に考えなければいけないと思います。

そういう意味では縮小する社会を前提に生産性を向上させて経済を維持させるという、そういう一つのシナリオと、この合計特殊出生率は何としても2以上にしなければ青森県は本当になくなる、八戸もなくなるということを実際として直視しなければいけないということを今からやらなければならない。

だいたい少子化はいつから始まったか皆さんご存じですか、ここ最近じゃないです。人口減少は2008年からです。子どもの数が減り始めたのは1975年からです。わたしが生まれる前です。50年間のトレンドなんです。この50年間のトレンドをいかにここから50年間かけて回復するかというチャレンジを今からしないと。そういうことを申し上げているのであって、本当に八戸がなくなっていいんですかということでは、これは答えはノーなはずなんです。そういうことをわたしはぜひ政策で実現したいと思います。

もう一つ大事なポイントは、子供と子育てのことばかりやっていると高齢者の方から責められます。ジジババのこともやれ。皆さんもそう思っている方もいるのかもしれない。でもこれは違います。子どもって、例えば10歳の子は10年すると生産年齢人口に、生まれた子も20年すれば生産年齢人口なんです。子どもの数を増やして子供に支援して、未来を作

るこどもに投資すれば青森県の未来に投資していることになる。子どもが大きくなって生産年齢人口になったときに、支えられるのは高齢者、わたしたち。今いるわたしたち。子どものいない世帯もその子どもたちに支えられる。さらにその子どもたちは今の子どもたちに支えられる。

だから子供を支援することは人口減少対策を超えて中長期的には経済対策、そして全世代を全世帯を支える生産なんです。税収という意味で財源になってあらゆる政策の基礎を支えて、そして年金や介護も現役世代に支えられて成り立っています。だから子どもたちを応援することがいかに全世帯、全世代を応援することにつながるか。やはりわたしたちはよく考えないといけない。これだけ子どもの数が少なくなっています。別に給食費ですべて変わるとは思いません。不妊治療ですべて変わるとは思いません。ましてイギリスやドイツがやっていた建艦競争のように今地方は疲弊しています。どこかがやったらこれをやらないといけない。そういうことを乗り越えて、本当の意味で子どもたちを支援できるようになれば、この国は絶対に変わると思う。そして青森県も必ず変わると思っているの、そこはやはり一点勝負をしているということでご理解いただきたいと思います。よろしくをお願いします。

小田山副幹事：宮下知事ありがとうございます。本日はこの後の懇親会にもご出席をいただけたことですので、そちらで個別のご質問もできるかと思えます。宮下様に今一度大きな拍手をお願いいたします。

点鐘：紺野会長：宮下知事、希望の持てる御話しを有難う御座居ました。只、知事様様に大胆に施策を打ち出し、チャレンジし続けられる方に、50年間県政を担って戴か無いと駄目かも知れ無い位、手強い課題が、人口減、少子高齢化なのだとも感じました。其の他にも色々な課題を御話し戴きました。選挙後に泊まりで、御話しする機会があった時に、

「選挙の痼が未だ残って居りますので、余り急がずに、コンセンサスを得ながら、施策を御進めに成られた方が。」という話しを老婆心ながら申し上げた事が御座居ました。しかし、今日も山積みの課題に対してスピード感を持って対応すると云う事を毅然と御話し為され、実際に1年間其の事を実行して来て下さいました。今の知事が御持ちのスピード感は、今だからこそ必要なもので有り、其れを保ちながら遣って戴きたく御願ひしたいとは思いますが、此れからもそう為されるのであらうとは思いますが、呉々も、御身体、健康にだけは御気を付け戴きたいと思えます。我々も宮下知事の真直な政策を、其々が選挙民として、青森県民としてしっかりと支える事で、青森県、日本を良くして行きたいと改めて思わせて戴きました。有難う御座居ました。

それでは2023-24年度の最後の例会を閉会致します。点鐘します。

懇親会では宮下知事のご出席の元、増田親睦・会場委員長の司会で会長挨拶があり築館ガバナーの乾杯の発声で会食が始まりました。中締めは橋本会長エレクトの三本締めでおひらきとなりました。



出席報告					出席委員会					
第3318回例会（6月26日）			第3316回例会（6月12日）							
出席率		100%	出席率		61.5%	修正出席率	61.5%			
総会員数		名	出席数		名	総会員数		67名	メイクアップした人数	0名
出席義務会員名	出席免除会員名	欠席数	名	出席義務会員	65名	出席免除会員	2名	欠席数	25名	